

令和7年10月7日

意見発表

◆おだ幸子委員

それでは、文教常任委員会に付託されました諸議案及び所管事項に対し、公明党県議団として意見、要望を述べさせていただきます。

本県の教育行政において、子供たちが安心して学び、成長できる環境を整えることが何よりも重要です。しかし、現状は、教員による不祥事や教員不足、外国にルーツを持つ子供たちへの支援、不登校児童・生徒への対応など、多岐にわたる課題が山積しています。

まず、教員による盗撮や性暴力といった不祥事は、児童・生徒や保護者の信頼を根底から揺るがし、安全で安心な学びの場を脅かす重大な問題です。

これまで、県教育委員会でも研修や防止策を進めてきたと承知していますが、それでもなお不祥事が繰り返されている現状は深刻です。SNSを含む教員と生徒との適切な関係を明確に指導し、安心して相談できる窓口を周知徹底すること、校内の点検や防犯対策を定期的に行うことが不可欠と考えます。さらに、日常的な行動の中から不適切な兆候を早期に把握し、指導する仕組みや、高い倫理観と教育者としての矜持を育む実践的な研修を強化し、他団体の先進事例を参考にしながら、再発を防ぐ仕組みを着実に構築していただくことを要望します。

次に、外国にルーツを持つ子供たちへの支援についてです。

近年、国籍や母語が一層多様化し、学校現場では、日本語指導の必要性が急速に高まっています。指導員や支援員が日々尽力されていますが、十分な体制が整っていないという声も多く聞かれます。選任人材の確保と育成を一層進めるとともに、ICT教材の活用や地域ボランティアとの協働を推進し、学校だけでは対応しきれない部分を地域全体で支える仕組みづくりが求められます。加えて、日本語力不足が学力形成や進路選択に影響し、希望する進学先や就職先を諦めたという声も伺っています。こうした現状を踏まえ、学習機会の保障から進学・就職支援まで、切れ目なくつなぐ支援体制を整え、全ての子供が夢や目標を諦めずに進路を選べるよう、県に積極的な取組を求めます。

さらに、教員不足への対応も待ったなしの課題です。

現場では、教員の確保に困難を抱えている中、定年退職後の元管理職が再び現場に戻り、豊富な経験を生かして支えている事例があります。こうした人材の活用は、教員不足の解消に寄与し、教育の質を維持する上でも大変有効と考えます。しかし、長年管理職として勤務されてきた方々の中には、再び学級担任や授業を受け持つ際に、教育現場の最新の状況や授業運営の変化、ICTの活用、保護者対応の変化などに適応するためのサポートが必要な方もおられます。再任用を選ばない理由をしっかりと把握して、柔軟な勤務形態の選択肢を広げるとともに、最新の教育実務に対応できる研修を充実させ、フォロー体制を強化してください。元管理職が安心して現場に復帰できる環境整備を早急に進めていただくことを要望します。

最後に、不登校児童・生徒への支援です。

不登校の子供の数は増加傾向にあり、学校だけでなく、フリースクール等の学校外の学びの場と連携することがますます重要となっています。保護者からは、どこにつながればよいか分からないという声も多く聞かれます。県教育委員会には、フリースクールや地域の多様な学びの場と積極的に協力し、情報提供や相談体制をさらに充実させていただきたいと思えます。

また、学校外で懸命に努力を続ける子供たちの学びを認め、支援する仕組みを整えることが重要です。誰一人取り残さない教育環境を実現するために、こうした多様な学びの場との連携を一層強化させていただきたいと強く要望します。

以上、教員の不祥事防止、外国ルーツの子供への支援、教員不足対策、そして、不登校児童・生徒への支援と連携の強化という四つの大きな課題について申し上げます。

県教育委員会には、現場の声を丁寧に受け止め、実効性のある施策を力強く進めていただきたいと考えます。全ての子供が安心して学び、未来へと力強く歩める教育環境の実現を改めて強く要望いたします。